

## 【福島大学のアドミッション・ポリシー】

### （１）求める学生像

福島大学では、「地域と共に歩む人材育成大学」として長年にわたり地域社会で活躍できる人材を育成してきました。さらに、東日本大震災・原発事故からの学びを活かして「新たな地域社会の創造」に貢献でき、人口減少や少子高齢化、資源・エネルギー問題などの「21 世紀的課題」が加速する福島をフィールドに、現代社会にイノベーションをもたらすことのできる人材を育成しようとしています。本学ではこうした理念を実現するために、大学での専門的な学習に必要な基礎学力と、現代社会への問題意識とその解決への意志を持ち、コミュニケーション能力や協働的な問題解決能力、建設的な批判的思考力、創造力の向上を目指す学生を広く求めます。

### （２）入学者選抜の基本方針

入学者選抜試験は学類ごとに実施し、各学類のアドミッション・ポリシーに適合した人材としての資質を総合的に判断します。

## 【人間発達文化学類のアドミッション・ポリシー】

### 1. 人間発達文化学類の教育目標と求める学生像

人間発達文化学類では、教員をはじめ地域や企業などで活躍できる広義の教育者（人間発達支援者）を目指す意欲を持ち、卒業までに次の4つの力を身に付けたいと考える学生を受け入れます。

- ・人間および文化に対し、それらの仕組みや相互関係について「理解し探究する力」
- ・主体的に現実にふれ、働きかける「人や文化と関わる力」
- ・課題を発見し知識や技術を通して「解決し創造する力」
- ・上記3つを基礎として、全体として人間の発達を支援し文化を育んでいく「教え育む力」

人間発達文化学類には、人間発達専攻、文化探究専攻、スポーツ・芸術創造専攻の3つの専攻があります。各専攻が求める学生像は次の通りです。

- ・人間発達専攻では、教育の現実や歴史に対する知見や、確かな心理学的知見、乳幼児期から生涯にわたる人間の発達、特別な教育的ニーズ等に強い関心があり、将来、関連分野で子どもたちを支援する職業等につきたいと考えている学生を求めます。
- ・文化探究専攻では、人間の発達にかかわる言語文化、地域文化、生活科学、数理科学について、それぞれの学問内容を深めるとともに、領域相互の関連性や応用性を追求し、その成果を教育現場や社会の中で生かしていこうとする学生を求めます。
- ・スポーツ・芸術創造専攻では、スポーツ・芸術分野や教育現場において広く活躍する専門家を育成することをめざして、これらの分野に強い関心を持ち、高い技能と深い探求心をもつ学生を求めます。

### 2. 入試の際に求める知識・技能・関心

人間発達支援者には、人間に対する理解だけでなく、高校で学ぶ人文科学や社会科学、生活科学、数理科学、芸術、スポーツなどの広い知識が必要です。大学において新たな知識や技術を身につけるために、以下に挙げる知識・技能・関心を有している学生を求めます。

(1)高校時代までの基礎的な学力・実技能力

(2)得意分野に関する優れた理解・技能（以下のうち1つ以上）

- ・得意な教科や領域の意味内容をよく理解している。
- ・スポーツにおける優れた実績を有している。
- ・音楽や美術において優れた技量を有している。

(3)教育・人間・文化・社会への問題意識、及び人間発達支援に対する強い意志

## 【行政政策学類のアドミッション・ポリシー】

### 1. 行政政策学類の教育目標と求める学生像

行政政策学類では、21世紀の地域社会が直面している諸課題について、広く学際的な観点から学び、より暮らしやすい健康で文化的な地域社会を作り出すために、卒業までに次の4つの力を身に付けたいと考える学生を受け入れます。

- ・法・地域・行政・社会・文化等の研究分野に関する基礎的かつ専門的知識
- ・国・地域・社会における諸問題を自ら発見し、調査・分析する能力
- ・発見し、調査・分析した諸問題につき、解決する応用的能力
- ・修得した知識・考察した結果を発表し、議論する能力

行政政策学類では、2年生の前期（第3セメスター）から、法学専攻、地域と行政専攻、社会と文化専攻のいずれかに所属することになります。各専攻は、次のような基礎的・専門的な知識及び能力を身につけた人材の育成を目標としています。

- ・法学専攻：リーガルマインド（「法的な思考」）を身につけた上で、市民としての政治参加、裁判員制度、企業法務、公務員としての法的実践などに適応し、国および地域の法的問題を自ら発見・解決することができる。
- ・地域と行政専攻：政治・行政・社会にかかわる研究分野の基礎的知識と、地域の固有性と多様性に対する調査能力・思考力を身に付けたうえで、地域社会の諸問題の解決に向けて積極的に貢献することができる。
- ・社会と文化専攻：社会学、歴史学、教育学、文化研究等についての専門的知識と学際的知識、及び調査・情報解読能力を身につけた上で、現代社会、地域社会、歴史理解、異文化理解、国際交流等にかかわる問題をみずから発見・考察し、その解明・解決の方向性を見出すことができる。

### 2. 入試の際に求める知識・技能・関心

21世紀の地域社会が直面している諸課題について、広く学際的な観点から学び、より暮らしやすい健康で文化的な地域社会を作り出すための能力を大学において身につけるために、以下に挙げる基礎的な知識・技能・関心を有している学生を求めます。

#### (1)高校時代までの基礎的な学力（以下のうち1つ以上）

- ・国語、地歴公民、理科、数学、外国語について、修学に必要な知識を有している。
- ・上記科目のうち、いずれか3科目について、優れた知識を有している。

#### (2)現代社会や地域の諸課題に関する理解力・思考力・分析統合力・表現力（以下のうち1つ以上）

- ・読書や論理的な文章を書く習慣に基づく長文の読解力・要約力
- ・政治・経済、社会的な問題などに関心を持ち、深く考察する態度
- ・意見交換によって解決策を考えだすための発言力或いは論点整理力

推薦入試では、上記の(1)・(2)に加え、以下の点を評価します。

- ・新しい地域社会づくりに関心を持ち、地域社会の発展に貢献しようとする意欲、及び流動的な社会の変化に対応し、過去に例のない課題に対して果敢に挑む意欲

## 【経済経営学類のアドミッション・ポリシー】

### 1. 経済経営学類の教育目標と求める学生像

経済経営学類では、現代社会で起こっている様々な問題に関心を持ち、それらを経済・経営の視点でとらえ、社会で実践するために、卒業までに次の3つの力を身につけたいと考える学生を受け入れます。

- ・経済学士として経済学・経営学分野の基礎的・専門的知識を適切に応用し実践する力、問題を解決する力
- ・幅広い教養と経済学・経営学分野の基礎的・専門的知識に基づいて、現実を分析し、論理的に思考する力
- ・職業人、生活者として自立し、社会的・倫理的な観点から自らを律する力

経済経営学類では、2年生の後期（第4セメスター）から、経済分析専攻、国際地域経済専攻、企業経営専攻の3つの専攻のいずれかに所属することになります。各専攻は、次のような基礎的・専門的な知識と能力を身につけた人材の育成を目標としています。

- ・経済分析専攻：ミクロ・マクロ経済学での諸議論を通して経済のしくみを体系的に理解し、得られた知識を金融・公共経済をはじめとした経済システムの分析とそのあり方に関する実践的な考察に応用することができる人材
- ・国際地域経済専攻：経済学的素養に基づく理論的・歴史的・政策的見地に加えてグローバルな知識を身につけて今日の経済社会を理解し、国際社会と地域社会の課題に理論的・実践的に取り組むことができる人材
- ・企業経営専攻：企業活動に対し、外部環境を踏まえて定量的・定性的に分析するための専門的知識を有し、それを応用して企業およびその他組織における適切な意思決定ができる基礎的力量を身につけている人材

### 2. 入試の際に求める知識・技能・関心

現代社会で起こっている様々な問題を経済・経営の視点でとらえる力および社会で実践する力を大学において身につけるために、以下に挙げる基礎的な知識・技能・関心を有している学生を求めます。

#### (1) 高校時代までの基礎的な学力

- ・国語、外国語、地歴公民、数学、理科について、修学に必要な知識を有している学生

#### (2) 文章を正確に理解する読解力、文章内容に基づき論点・課題を論理的に考察する思考力、自らの考えを的確にまとめる知識活用力・表現力を有している学生

#### (3) 現代社会で起こっている様々な問題に対する関心・意識と勉学意欲を持つ学生

#### (4) 得意分野に関する優れた学力・実績（推薦入試及び専門学科・総合学科卒業生入試に該当）を有している学生

推薦入試及び専門学科・総合学科卒業生入試では、上記の(1)・(2)・(3)に加え、以下の点を評価します。

#### ● 推薦入試（以下のうち1つ以上）

- 行動力や創造力に基づいた、特記すべき活動歴を有していること
- 簿記・情報関連に対する優れた知識、ないし関連資格を有していること
- 英語等の外国語に関する優れた知識、ないし関連資格を有していること

#### ● 専門学科・総合学科卒業生入試

- 簿記、情報等の実践的科目に対する優れた知識を有していること

## 【共生システム理工学類のアドミッション・ポリシー】

### 1. 共生システム理工学類の教育目標と求める学生像

人間について知りたい、ものづくりや企業経営に興味がある、自然や環境を調べたい、の少なくともどれか一つに当てはまり、人間社会の抱える問題に関心がある皆さんの入学を歓迎します。本学類での学習は、高校までの数学・理科を基礎に発展させますが、変化を続ける人間社会とその課題を理解する力も必要です。そのため、この学類への入学と勉学に強い意欲を持つ人を対象に、本学で学ぶために必要な基礎学力、柔軟な思考力、分析・観察力を評価し、入学者を選抜します。なお、入学の1年後には専攻配属が行われます。

各専攻の教育は以下のような特色をもっています。

#### 【人間支援システム専攻】

人理解や人間支援又はそれらの基礎となる分野に強い関心があり、卒業後、人間支援技術分野で活躍したいと考えている人、特に、心理学や生理学などの生体システム科学、情報工学や機械・電気・電子工学などを基礎とする人間支援の技術開発に強い関心と意欲のある人を求めます。

この専攻では、他大学では複数学科にまたがっている人理解と人間支援に必要な基礎・専門科目を総合的に学ぶことができます。

#### 【産業システム工学専攻】

ものづくりが好きで企業経営にも強い関心があり、卒業後、製造業、起業家、弁理士などの産業支援分野で活躍したいと考えている人、特に、化学工学、材料工学などを基礎とする環境負荷の少ないものづくり技術や、情報工学、経営工学、数理科学およびそれらを基礎とする省資源・循環型社会システムの構築に強い関心と意欲のある人を求めます。

この専攻では、他大学では複数学科にまたがっているものづくりに必要な基礎・専門科目と産業社会システムに関する基礎・専門科目を総合的に学ぶことができます。

#### 【環境システムマネジメント専攻】

水資源などを中心とした自然資源の確保・保全に強い関心があり、卒業後、環境管理者、環境計量士、公害防止者として活躍したいと考えている人、環境分析化学、浄化学、生態学や地域計画、流域管理計画などを基礎とする環境システムの学習に強い関心と意欲のある人を求めます。

この専攻では、他大学では複数学科にまたがっている環境の科学と保全・管理に必要な環境システムに関する基礎・専門科目を総合的に学ぶことができます。

**入学試験の種類** 本学類に入学していただくには、以下の4種類の入試があります。

#### アドミッション・オフィス (AO) 入試 (募集人数 30人)

高等学校までの学習全般を含む総合問題、自ら設定した課題についてのポスターを用いた発表と口頭による質疑、志願理由書および調査書により、高等学校の基礎的な学力、科学的思考力のある人を選抜します。特に持続的な探求意欲と行動力のある人を期待します。

#### 推薦入試 (募集人数 20人)

小論文、面接、志願理由書および調査書により、基礎学力、理解力、論理的な思考能力と表現能力を持つ人を選抜します。調査書の全体の評定平均値が4.0以上の人を対象としており、高等学校の間に勤勉な学習を重ねた人を期待します。

#### 3年次編入学 (募集人数 若干名)

高等専門学校を卒業見込みの者を対象に、面接と提出書類(志願理由書、卒業研究概要、推薦書、調査書)により、志望する専攻で学ぶために必要な基礎的な学力をもち、専攻分野での学習意欲が高い人を選抜します。

#### 一般入試 (募集人数 前期日程 80人、後期日程 50人)

理科1科目および数学(前期)または数学(後期)の記述試験による個別学力検査、センター試験(5教科7科目)および調査書により、基礎的な科目を広く習得し、理系科目の柔軟な思考力と応用力がある人を選抜します。

## 【現代教養コースのアドミッション・ポリシー】

### 1. 現代教養コースの教育目標と求める学生像

現代教養コースでは、現代社会が直面する問題を解決するための“新しい教養”を身につける意欲をもち、卒業までに次の4つの力を身に付けたいと考える社会人を学生として受け入れます。

- ・ 職業に関わる専門的知識・技能の修得を望む学生
- ・ 現代社会を理解し、生活課題・地域社会が直面する課題を解決する 社会人としての教養を求める学生
- ・ 人間性を探求する 生きがいとしての教養を求める学生
- ・ 働きながら、生活や職業という実体験をもとにして、主体的に学習を深めることを望む学生

現代教養コースには、文化教養モデル、コミュニティ共生モデル、法政策モデル、ビジネス探究モデルの4つのモデルがあります。各モデルが求める学生像は次の通りです。

- ・ 文化教養モデルでは、教養を広げ、文化を体系的、探究的に学びたい学生を求めます。たとえば「子育てや家庭教育、家族の問題についてきちんと考えてみたい人」「地域や文化、ことば、国際理解、数理科学などの問題に関心のある人」「健康やスポーツに関心がある人」「芸術的教養を高めてみたいと考えている人」です。
- ・ コミュニティ共生モデルでは、地域コミュニティの抱える問題に対し、その解決に貢献するための学問的基礎知識を身につけたい学生を求めます。たとえば「まちづくりや福祉活動などに携わっている人、関心のある人」「将来、地域社会でボランティアやNPO活動などへの参加を考えている人」「地域社会のリーダーを目指している人」です。
- ・ 法政策モデルでは、複雑で多様な地域社会の現象に的確に対処できる、法的な思考・解決能力の修得を望む学生を求めます。たとえば「公務員をはじめとした公共部門の仕事に就いている方で法律知識を身につけたい人」「裁判員制度や司法改革により法律が身近なものとなる中で、市民としての幅広い教養的法学を学びたいと考えている人」「将来、法律の専門職、資格取得を意識し、その基礎的法律知識を身につけたい人」です。
- ・ ビジネス探究モデルでは、現代社会で起こっている様々な問題に関心をもち、それらを経済・経営の視点でとらえる能力をもつことで、社会での実践力を養いたいと考える学生を求めます。たとえば「企業や役所等に勤める方で、業務のうえで経済・経営について学びたいと考えている人」「高校卒業後、働きながら経済・経営について学びたいと考えている人」「地域の問題に関心をもち、これを経済・経営の視点で捉えたいと考えている人」です。

### 2. 入試の際に求める知識・技能・関心

職業に関わる専門的知識・技能、および、現代社会を理解し、生活課題・地域社会が直面する課題を解決する社会人としての教養や、人間性を探求する生きがいとしての教養を、働きながら身につけるために、以下に挙げる基礎的な知識・技能・関心を有している学生を求めます。

- (1) 大学での学びの基盤となる基礎的な学力
- (2) 夜間主コースにて何を学ぶのかに関する鮮明な目標と課題意識
- (3) 自己の目標に向かって努力する姿勢
- (4) 働きながら修学を続けることに対する強い意志